上田市立東小学校　学校だより

望と勇

令和８年11月２日
No.27
文責　田中　誠

地域のお宝を語り合う



10月23日（金）に第2回学校運営委員会を行いました。地域の皆さん、PTA三役・相談役の皆さんにお集まりいただき、テーマを「地域のお宝を、これからの子どもたちの学びへ」と題して話し合いました。授業を終えた職員も加わり、文字通りの熟議となり、黒板の記録も盛りだくさんとなりました。私にとっては刺激的な話をお聞きすることができ充実した時間となりました。

話し合いの視点は、

①　「これまでの教材研究から見えてきたもの」を記録や写真で振り返る
②　地域の方から子どもたちに残したい「地域の記憶」をお聞きする
③　それらを子どもたちが知ったとき、どのような問いをもつか
④　子どもたちと学習しようとするとき、地域や学校で何ができるか

でした。黒板の文字が小さく読みにくいかと思いますが、「岩門大日堂」「水・せぎ・神川」「粘土質の土・かわら・やきもの」「神社・仏閣」について熱いお話をきくことができました。

特に惹かれたのが「粘土質の土」です。岩門地区の土はとても粘土質で、農業をするには非常に難儀だったというお話から、染屋地区には染屋焼という焼き物があり、染屋坂の途中に焼き窯があったという事実につながりました。さらには、田んぼの土をレンガ状に積み重ねて干していた、それが出荷されていたという幼少時の記憶まで掘り起こされました。この粘土質の土がキーワード。焼き物を作るには上質の土がある＝古代の建築には欠かせない資源が豊富という風に考えられます。そして岩門のふもとには信濃国分寺。と考えると信濃国国衙跡が、岩門や染屋の台地に眠っているかも…。

ワクワクしっぱなしの熟議の時間でした。この日は「子どもたちが**自分が**やりたいと思うことを、**自分で**調べたり考えたりすることで、**自分の**ものになる」という結論に行き着きました。それを授業に落とし込むのが教師の仕事。あくまで子どもたちの関心に基づくことが大事ですが、また一つ可能性が広がる時間となりました。